

## 別紙 4

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

## 主 論 文 の 要 旨

論文 題目 20 世紀前半の中国人建築学生の日本留学と卒業後の活動に関する研究

(A study on studying in Japan and post-graduation activities of Chinese architecture students in the first half of the 20th century)

氏 名 李芳星

## 論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、20 世紀前半の日本留学中国人建築学生を対象として、彼らの留学機関、身分、留学経費などの考察に基づいた彼らの留学実態、日本側の受け入れ基盤の成立、そして、彼らが日本に受けた建築教育の内容を整理した上で、彼らの卒業後の進路と活動及び日本との関係、さらに彼らの建築活動を明らかにし、中国近代建築の発展の中で位置づけたものである。そして、本論文は、20 世紀前半の日本留学中国人建築学生の全体像を解明する研究として位置づけられるものである。

中国には 1920 年代初頭まで国内での建築の高等教育がなく、外国留学が重要な教育方法であった。その中で、日本留学中国人建築学生は、他国への留学生に比べて留学の時期が早く、人数も多かった。そのため、日本留学中国人建築学生の実態を解明することは中国近代建築史研究にとって大きな意義がある。一方、中国建築の近代化に重要な役割を担ったのは、外国人建築家と海外で建築教育を受けた中国人建築留学生であった。これまでの研究では、米国留学中国人建築学生が注目されていたが、日本留学中国人建築学生にも中国の建築界に影響力を持った人物がおり、日本留学中国人建築学生の卒業後の様々な活動もまた、中国近代建築史に欠くことのできないものである。従って、本論文は中国近代建築史研究において重要な研究と位置付けられる。

本論文は、日中両国の留学制度、建築教育、日中の近代化との関連性の三つの視点から、日本留学中国人建築学生の日本留学と卒業後の活動の二つの側面を考察し、日本への建築留学の全体像と中国の近代化過程への影響を示すこととした。具体的には、研究目的などを記した序章のほか、日本留学についての 1 章と 2 章、卒業後の活動についての 3 章と 4 章、結論としての 5 章、および付録で構成されている。

序章では、本研究の目的と対象、既往研究と研究の位置付け、研究の視点と方法、用語の説明などを記した。そして、外務省外交史料館などアジア歴史資料センターが公開している文献資料、中国第一歴史档案馆、同第二歴史档案馆、遼寧省档案馆などが所蔵する文献資料などに基づき、1906 年から 1945 年にかけて 262 名の中国人建築学生が日本

の教育機関 32 校に留学していた事実を把握した。これを基に本論文を以下のように構成した。

第 1 章では、中国人建築学生の日本留学を支えた制度を明らかにした。送り出し国である中国の立場から、中国人建築留学生の留学前の出身や学習状況、中国政府側が提供する官費制度などを把握した。受け入れ国である日本の立場から、日本の国家法規や各学校での中国人留学生の受入制度を考察し、実際の受け入れ状況を明らかにした。特に 1907 年に日清両国が結んだ「五校特約」制度により、その対象となった東京高等工業学校に多くの中国人留学生が来日したことを示した。

第 2 章では、日本留学中国人建築学生の在学実態を明らかにした。日本留学中国人建築学生が日本で受けた教育内容、在学状況、在学中の学術活動と課外活動を分析することにより、彼らが留学中に学校で何を学び、学内外でどのような活動に参加していたのかを再現した。当時、日本の建築教育は建築のあらゆる分野に及んでおり、それを学んだ中国人建築学生は、他国に留学した建築学生に比べて幅広い知識を身に付けたことを明らかにした。また、日本人教員が吸収した西洋の建築知識が留学生に教えられ、日本の社会と建築の変化の影響も留学生に及んだ。

第 3 章では、日本留学中国人建築学生の卒業後の進路、就職機関などを考察した。157 名の中国人建築学生の卒業後の情報を整理した上で、彼らの卒業後の進路の 4 類型に分類し、各進路の特徴と、官・公費制度の帰国義務を中心として決定要因を明らかにした。そして、当時の中国での技術者制度を紹介した上で、中国人建築学生の帰国後の就職機関は、主に政府機関、民間企業、教育機関であったことを示した。彼らは、建築設計のみならず、施工、都市計画、道路・鉄道建設及び建築教育という幅広い分野で活動していたことが明らかになった。

第 4 章では、第 3 章で判明した設計・施工、建築教育、学術研究の各領域において彼らの具体的な活動内容とその特徴を明らかにした。その分析を通じて、日本留学中国人建築学生は、各地の建築の設計・施工、都市計画とその事業化、鉄道建設に貢献し、中国における初期の建築の高等教育を確立した。特に、日本での建築史研究の影響を受け、彼らによって中国建築史研究が生まれ、発展したことを示した。

第 5 章では、上記の各章の結論に基づき、日本留学中国人建築学生と他国に留学した中国人建築学生との比較、彼らの卒業後の貢献及び彼らの日本での留学経験との関係を分析し、日本留学中国人建築学生の人数、帰国後の技術者（エンジニア、Engineer）としての活躍、中国近代建築教育への貢献、知識伝播の媒介、中国建築の研究の 5 点について日本留学中国人建築学生の特徴をまとめた。特に、日本留学中国人建築学生は中国近代建築史において大きな存在であり、各地の都市建設、近代建築教育の基礎の確立と発展、中国建築史学研究の開拓・発展に大きく貢献した。最後に、彼らの設計作品の詳細な分析など本論文では未検討の課題を記した。